

【経営状況について】

- (1) 備前病院の令和2年度4月から9月までの経営状況の資料によると、半期6ヶ月の収支累計がマイナス5,300万円になっており、通年では約2倍の、約1億円のマイナスなると予測される。また、他の病院に比べて極端に現預金が少なく、1ヶ月の売り上げにも満たないような額となっている。民間の会社であれば自己破産していてもおかしくない危機的状況である。一般会計からの繰入があるため何とか資金が続いているが、その資金も国民の税金であるということをしっかりと認識し、資金的な部分をしっかりと計画して、危機感をもって経営に取り組んでいかなければならない。
- (2) 前年度に比べて医業収益や患者が減少している診療科については、例えば整形外科に関しては、予約制にして以来、患者数が減少しているということであるが、そういう原因があるのであれば、早急に改善しなければならない。個々の問題を個々の視点で見て、予約制をやめるとか、どのような手術をどれだけの件数しているとか、細かい部分をきちんと分析して、一つ一つ取り組んでいかない限りは、改善しないと思う。
- (3) 人件費率が高い等、非常に難しい問題だと思うが、まずはドクターがリーダーシップ持って仕事をしていくのが基本だと思う。医者が範を示して働き、その背中を見てスタッフも働いていくというのが基本的なところだと思うので、しっかりと取り組んでほしい。

【財務諸表について】

収支の資料について、損益の収支を見る資料だけでなく、資金収支を見ることができる資料としてのキャッシュフロー計算書があれば、運営状況についてより分かりやすくなる。コロナ禍で苦境の中にある様々な企業も資金繰りでは困難な状況にあり、資金繰りの部分も見て、より実態をつかむ必要があると思うので、次回からそういった資料を用意してほしい。

また、収支計画や業務量の推移の実績報告について、口頭での説明を聞いているだけではわかりにくいので、書面に起こした資料を作成し、事前に配布してほしい。

【評価の方法、評価表について】

- (1) 現在、以前と比べて何%上下したかで自己評価をしているが、目標を決めてあり、その目標の何%を達成しているかという方がわかりやすいのではないかと。
計画の評価なので、最初の年度からの変化の度合いを把握することも必要かもしれないが、そのような自己評価では、数値として読み取りにくい。
ポイントとしてどこを見ればよいのか、表記の仕方等を工夫して、わかりやすい資料にしてほしい。
- (2) 評価が文章で書かれているものの中にも、数字が書き込める項目がいくつかあるのではないかと。患者満足度調査であれば、満足の度合いがどれぐらいであるか数字で表わせるか

も知れないし、省エネ対策や共同仕入れ、経費節減の徹底ということであれば、金額で表現できるのではないかと。数字を見ることができる方が、評価はしやすいと思う。

(3) 接遇研修について、備前病院での参加率が低い。コロナ禍で集合研修が難しいというような事情があるかもしれないが、接遇というのは重要なことなので、開催方法を工夫しながら、参加率を向上させた方がよい。

(4) 非常に多くの項目があり、様々な課題がある。特に自己評価で、DやEの表記になっている項目は、医師の配置や異動の問題等、なかなか解決できない課題となっているようだ。

【公立病院の役割について】

患者数の減少、更にコロナ禍で、非常に厳しい状況にあるが、公立病院は公益を資する医療しており、地域にとっては非常に大切だと思うので、公立病院としての役割を、責任をもって果たしていただきたい。